

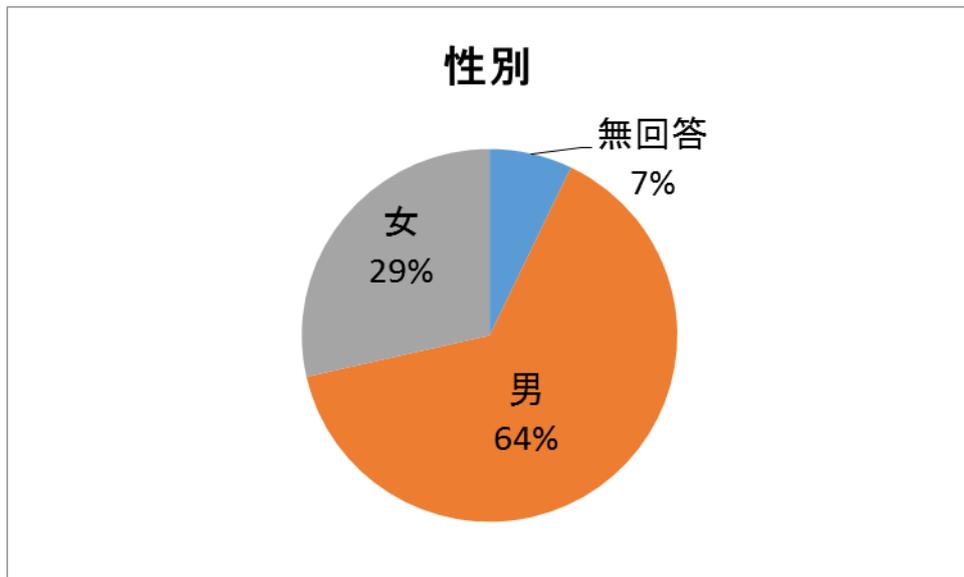
平成30年度空家所有者意識調査

実施日： 平成30年12月11日～12月25日

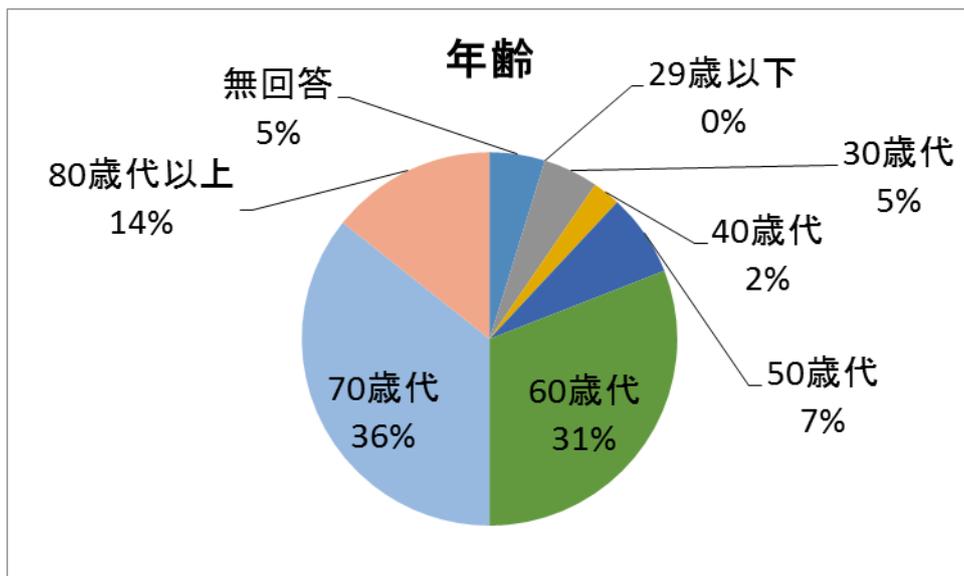
配布数： 77部 回収数： 42部

問1. あなた自身のことについておたずねします。

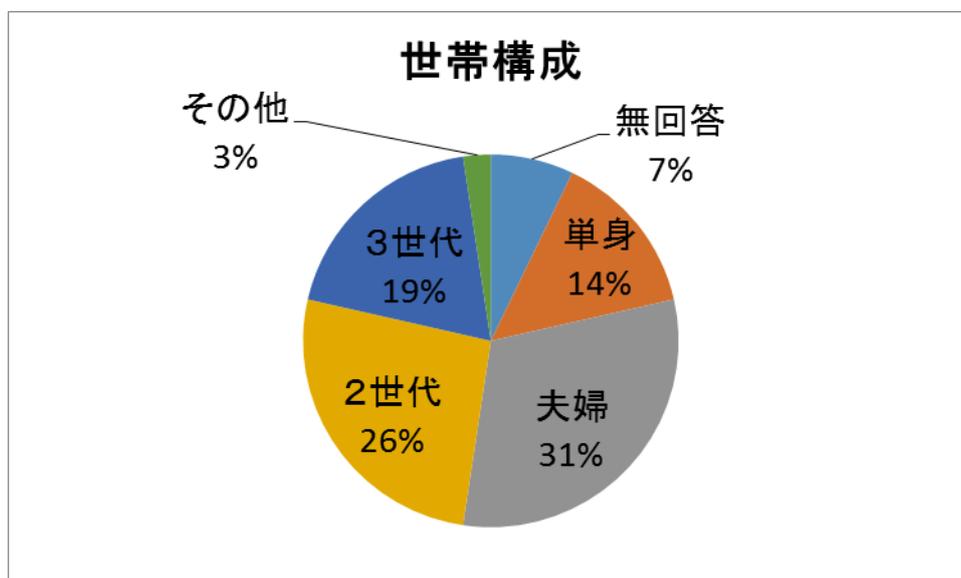
①性別（42名）



②年齢（42名）



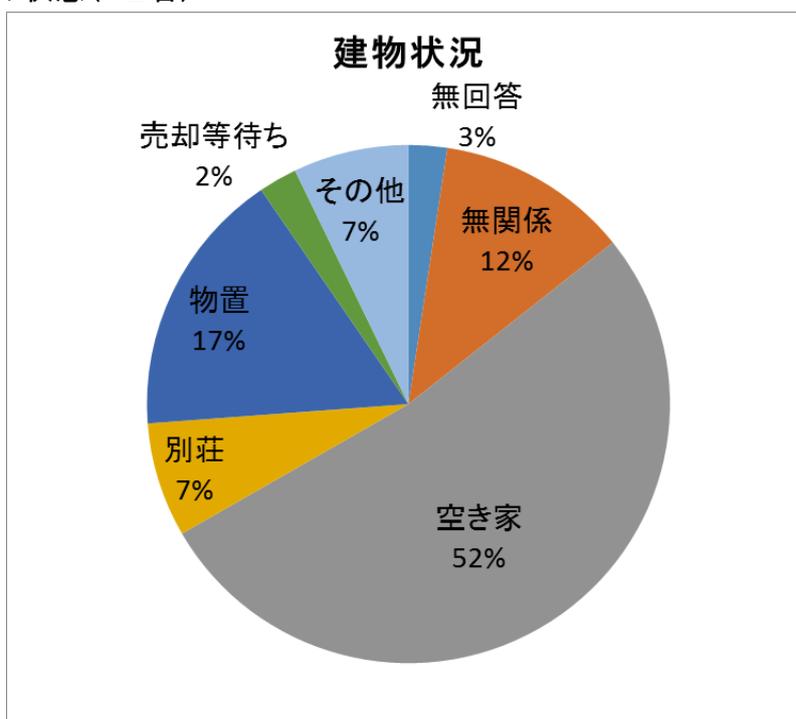
③世帯構成(42名)



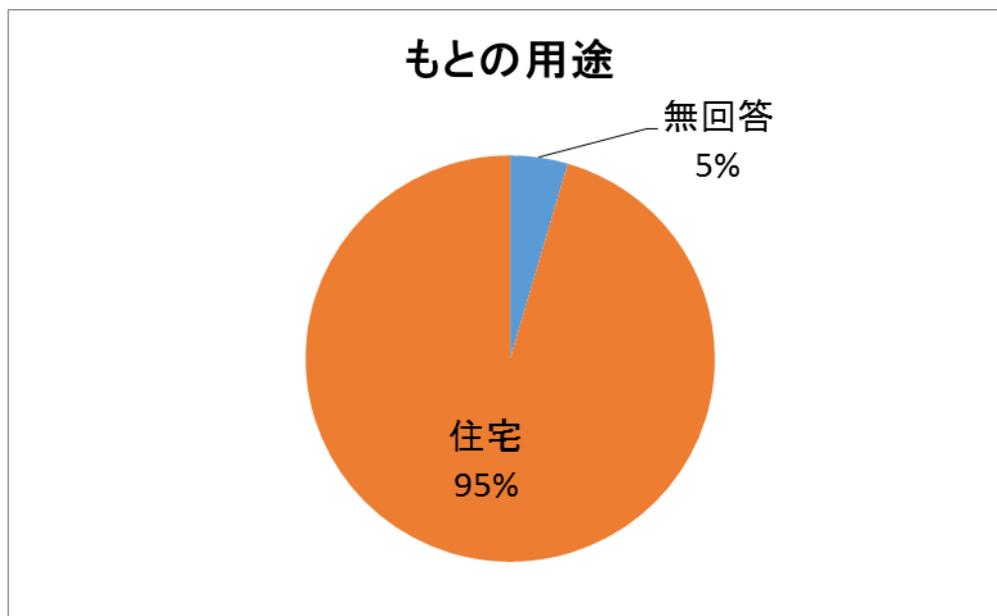
回答者の81%が60歳以上で、高齢者が非常に多いことがわかります。
また、单身・夫婦世帯が45%を占めており、世帯分離が進んでいることがうかがえます。

問2. 平成27年度に村が行った現地調査の結果、空き家ではないかと思われる建物についておたずねします。

1. 空き家の状態(42名)



2. 空き家と回答した人に、元の用途は？(22名)

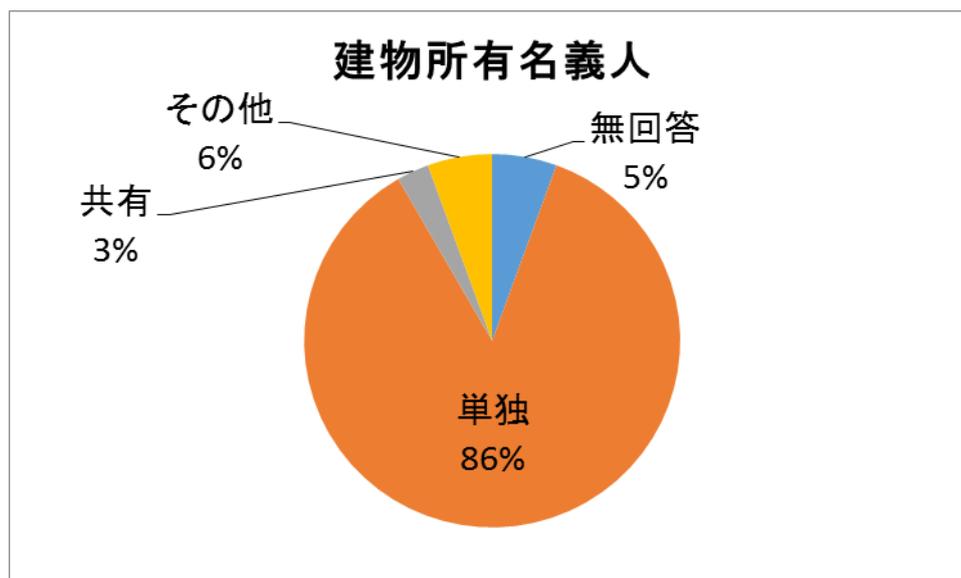


完全に空家になっているものが過半数で、住宅の用途から外れている物置も含めると、約7割が「その他住宅」に該当します。売却や除却が完了し、「自分とは無関係」とする回答もありました。

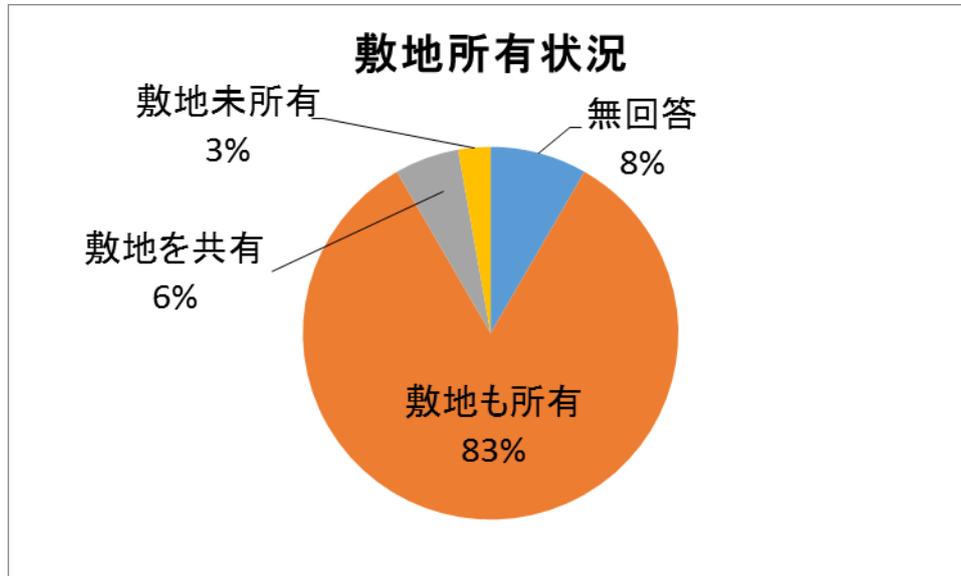
空き家のもとの用途は、無回答を除けば、すべてが住宅でした。

問3. 対象建物やその敷地についておたずねします。

①対象建物の所有名義人についてお答えください。(36名)

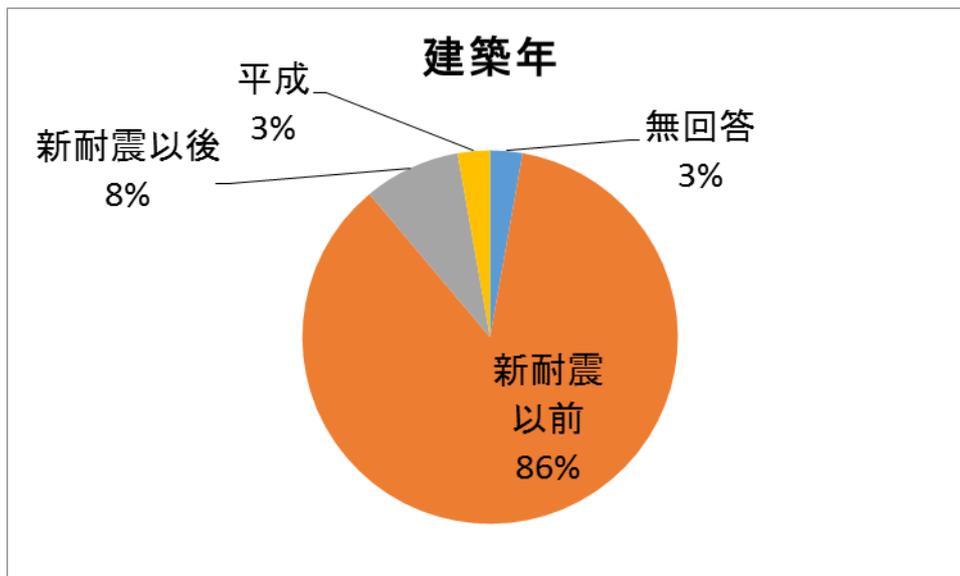


②敷地の所有状態についてお答えください。(36名)

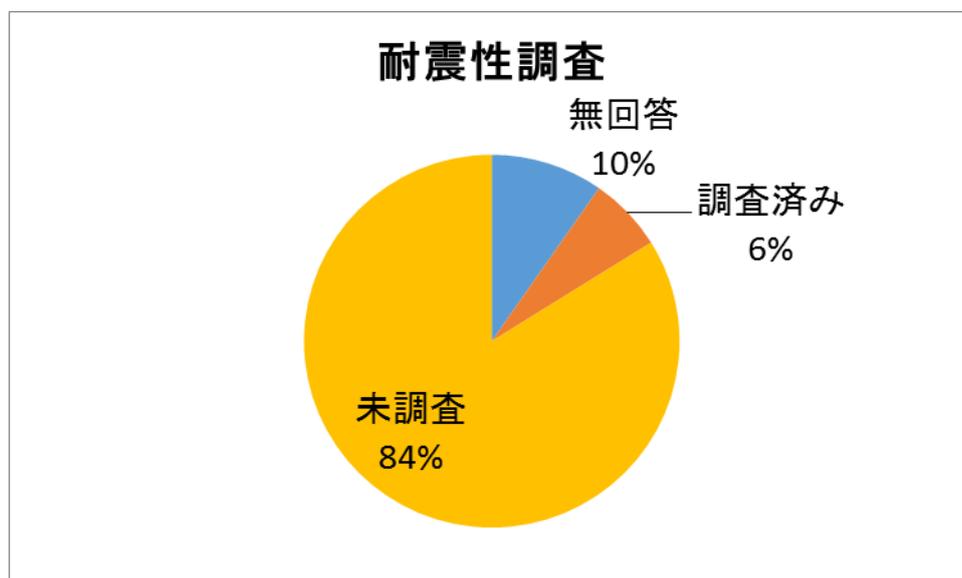


単独で所有名義人になっている人は86%で、建物と併せて敷地も所有していると回答した人が83%でした。このことから、ほとんどの空家については、所有者が自由に処分を決められることがわかります。

問4. 対象建物は、およそ何年頃に建てられたものですか。
建築年(36名)



1. 新耐震以前の場合、建物の耐震性の調査は行っていますか。（31名）



2. その耐震性の調査結果はいかがでしたか。（2名）

耐震あり 0名
耐震なし 2名

3. 「耐震性なし」の場合、その後どのような対応をしましたか。（2名）

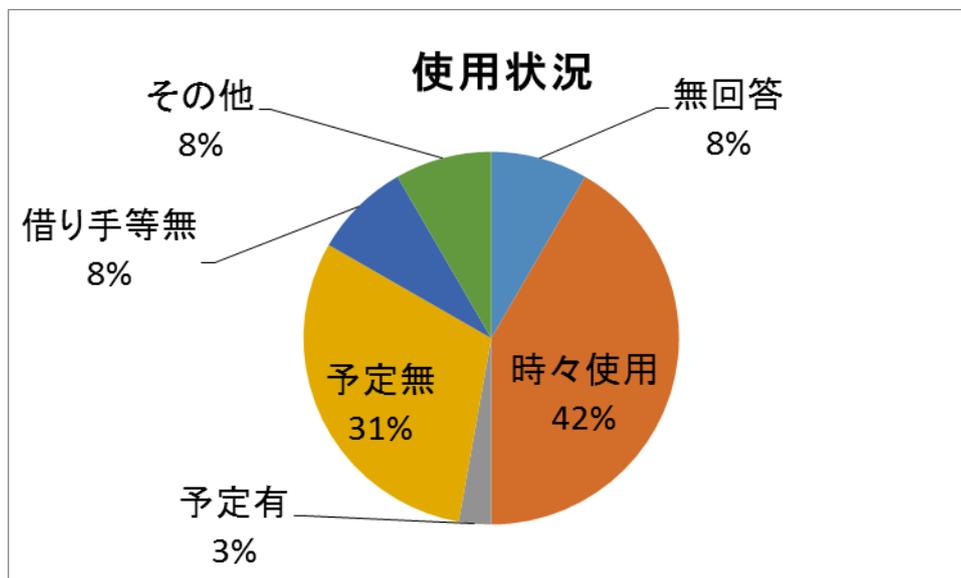
補強実施 0名
補強予定 0名
そのまま 2名

耐震基準は昭和56年5月31日に大幅に改正されましたが、それ以前に建設された建物が86%を占めています。さらに、そのうちの84%が耐震性の調査を行っていないので、空家の耐震性は低いと思われます。

耐震調査済みの2件についても、共に耐震性無しで、その後特に対応は施されず、そのままになっています。

問5. 対象建物の使用状況についてお答えください。

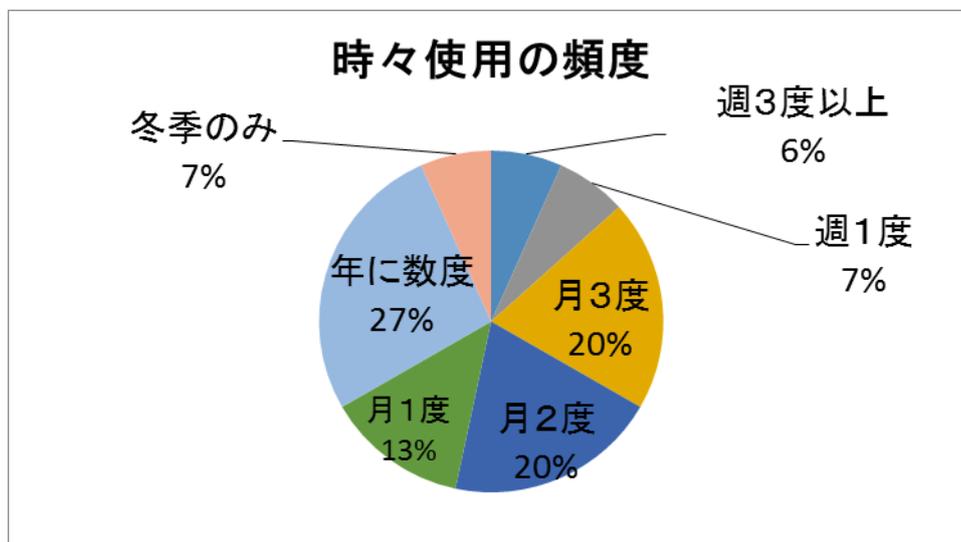
使用状況(36名)



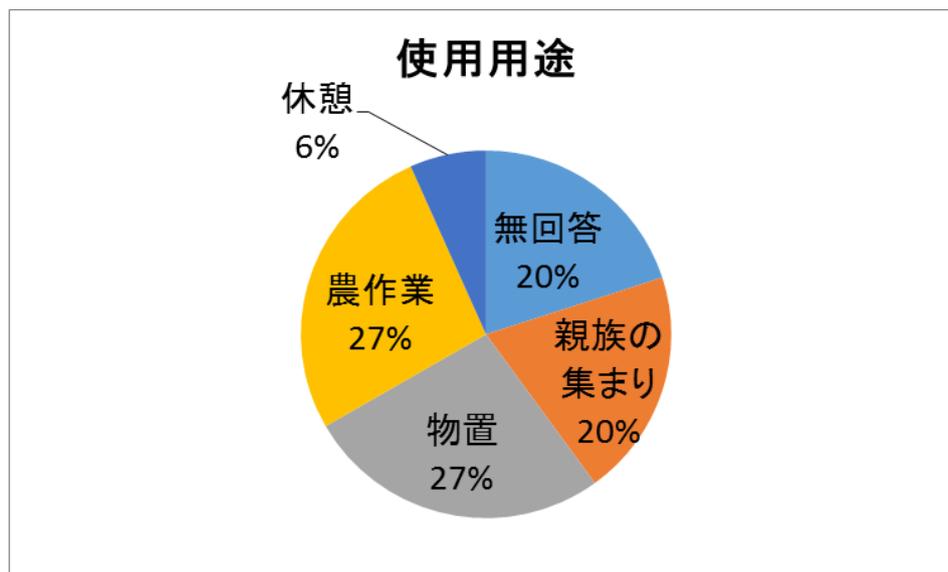
建物の使用状況は、時々使用しているが42%でした。

問6. 問5で「1. 時々(居住以外の用途を含め)使用している」と答えた方におたずねします。

①使用頻度はどのくらいですか。(15名)



②どのような用途で使っていますか。（15名）

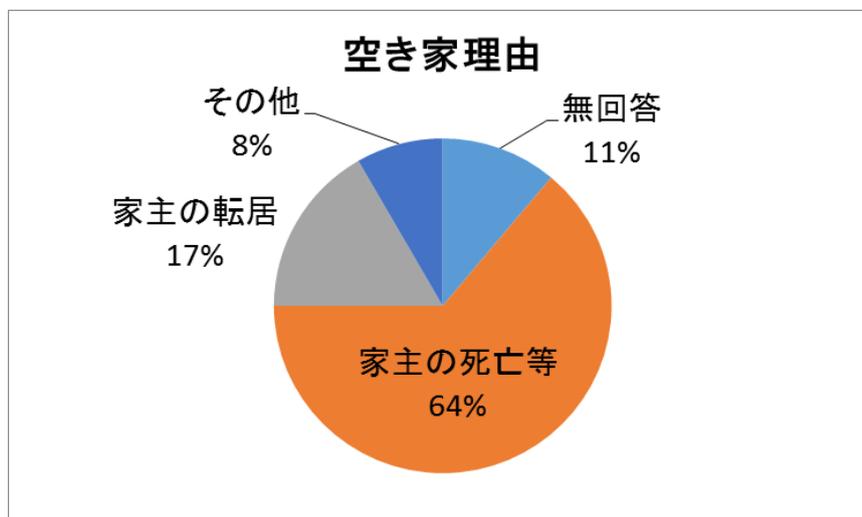


月に1回以上の頻度で使用している人は66%でした。

使用用途については、物置と農作業での使用が27%ずつで最も多く、親族の集まりでの使用が、20%で続きます。

問7. この建物が空き家になった主な理由は何ですか。

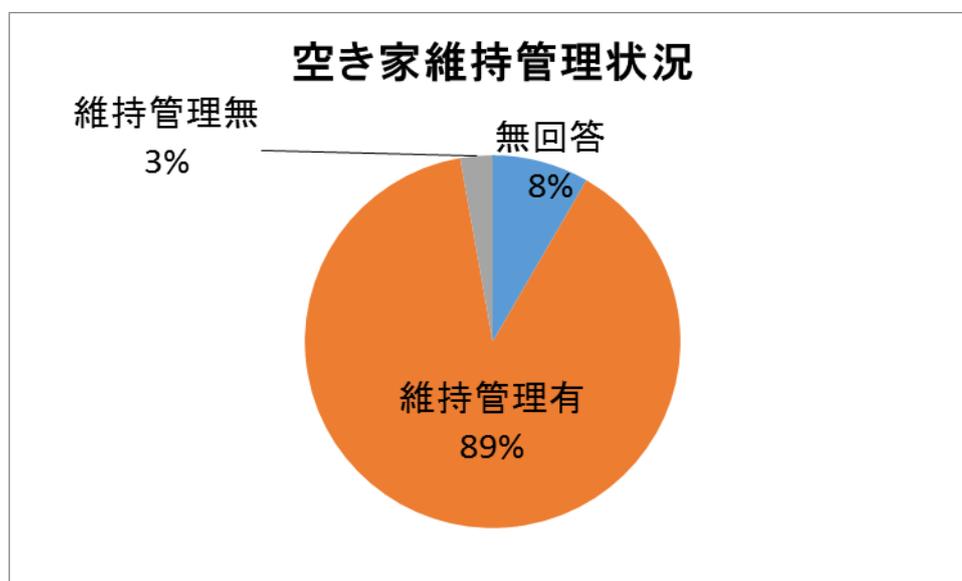
空き家になった理由（36名）



家主の死亡等が64%を占めており、相続で空き家を引き継いだものの、そのまま居住者不在となっているケースが多いようです。「その他」では、「他の場所へ新築した」が2件ありました。

問8. 現在、この建物の維持管理を行っていますか。

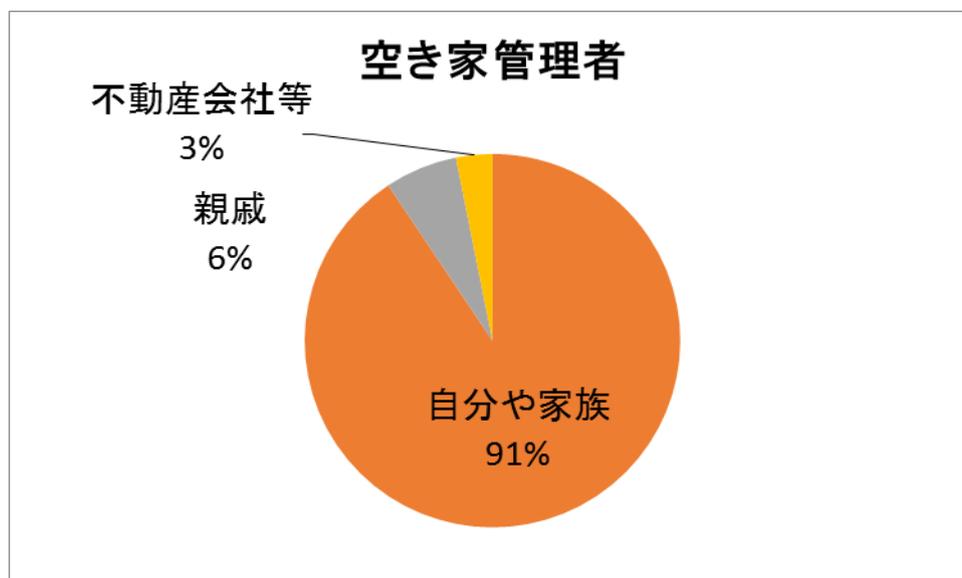
空き家維持管理状況（36名）



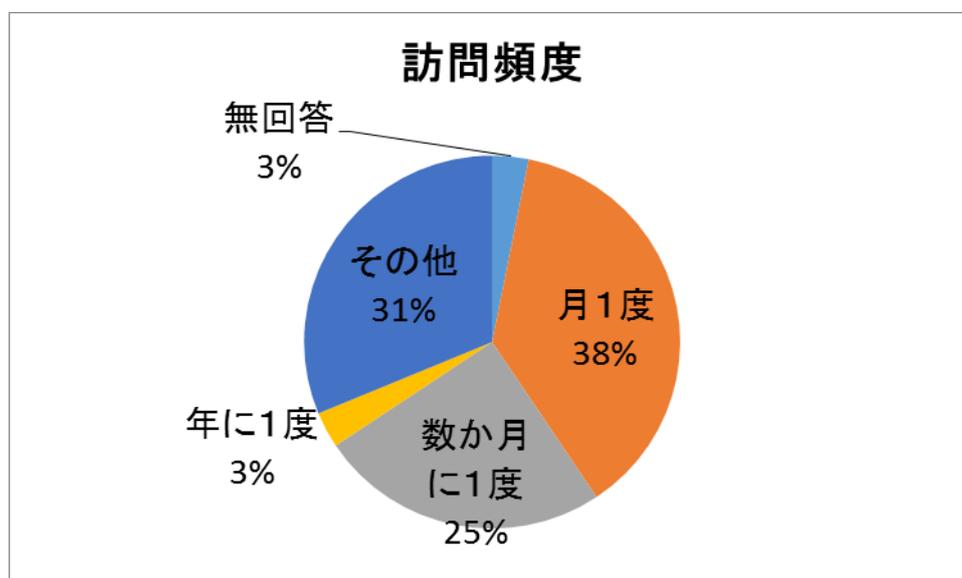
89%の空き家について、維持管理が行われており、所有者または管理者の意識が高いことがわかります。

問9. 問8で「1. 維持管理している」と答えた方におたずねします。

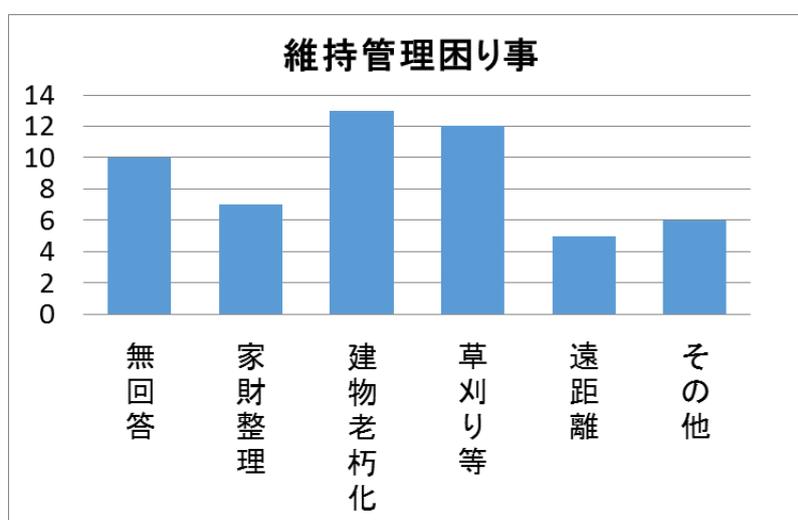
①対象建物を維持管理されているのは、主にどなたですか。（32名）



- ② ①の人が、維持管理のために建物を訪れる頻度はどの程度ですか。
(32名)



- ③この建物の維持管理でお困りの事がありますか。(複数回答可)

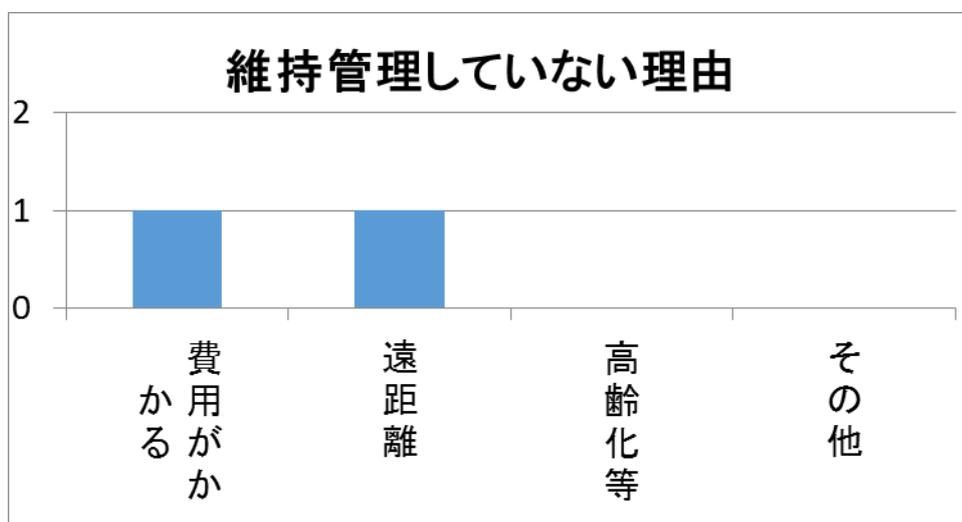


自分や家族で管理されている方が91%で、管理に費用をかけずに行っているように見受けられます。

月に1度に管理していると回答した方が、38%で最も多くなっていますが、管理の内容は分かりません。

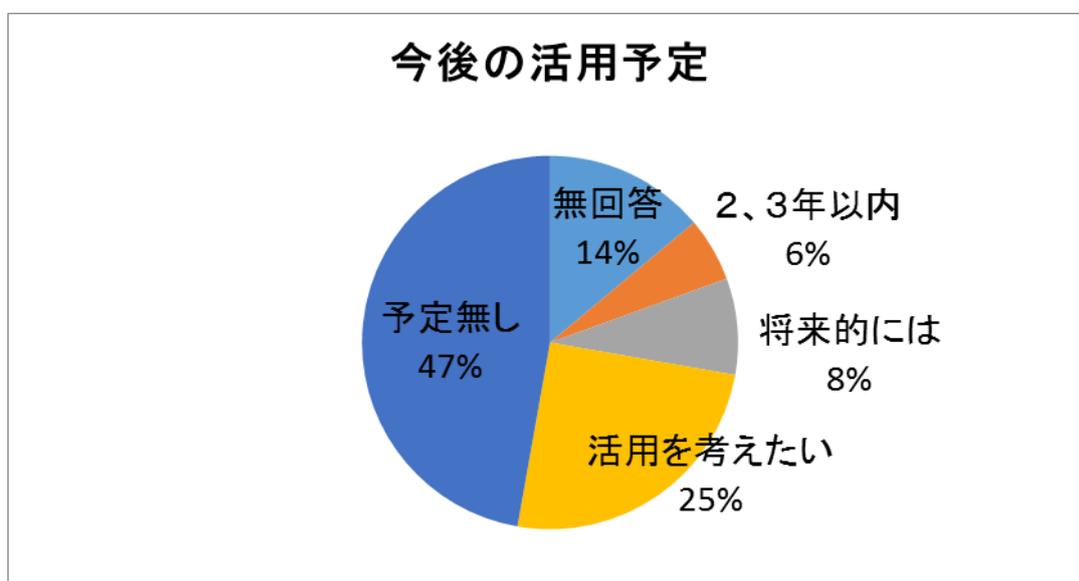
維持管理に当たっての困りごととしては、建物の老朽化が13件で一番多く、耐震補強を含めた改修を考慮する必要性が考えられます。続いて草刈り等が12件あり、苦慮されていることが分かります。

問10. 問8で「2. 誰も維持管理していない」と答えた方におたずねします。維持管理されていない理由は何ですか。



「維持管理には費用がかかる」と「今の居住地が遠く、現地へ行くのが困難だから」が、1件ずつありました。

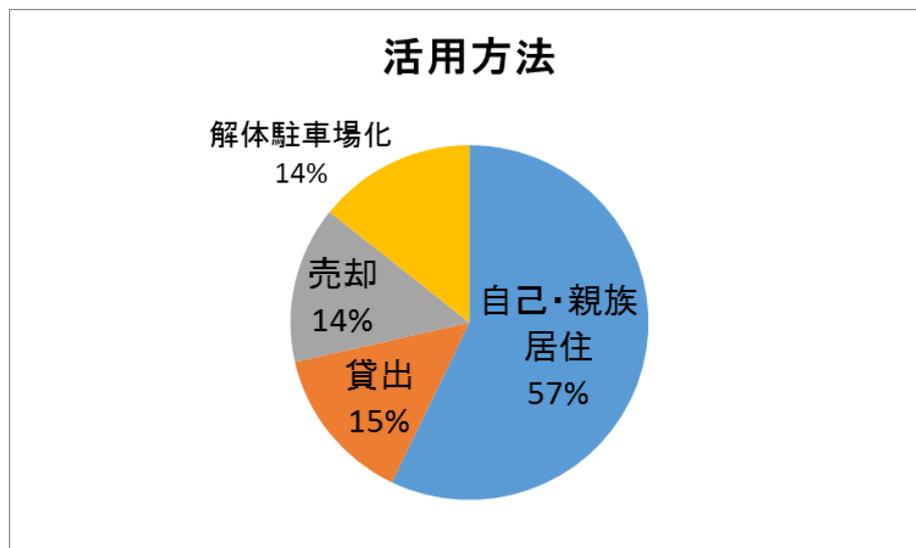
問11. あなたはこの建物について、今後活用したいとお考えですか。
今後の活用予定（36名）



「活用するつもりはない」が約半数で、将来の展望がみえない状況があります。

問12. 問11で「活用する計画がある」、「活用を考えたい」と答えた方に伺います。どんな活用方法をお考えですか。

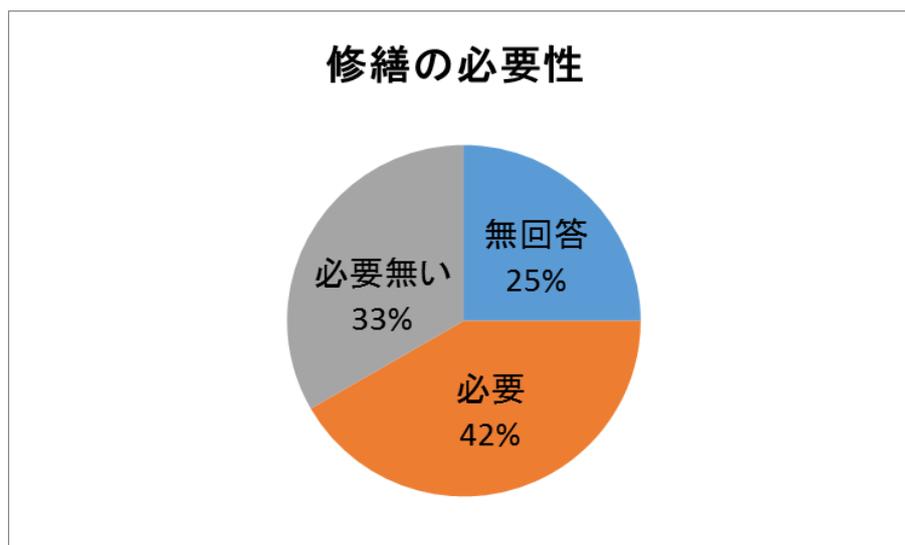
活用方法（14名）



「自分または親族が居住・使用する」が57%を占めており、貸出、売却、駐車場化を引き離しています。自己活用が支配的です。

問13. 問12で「1. 自分または親族が居住・使用する」、「2. 賃貸住宅などとして貸し出す」「3. 建物を売却する」と答えた方に伺います。そのためには、建物の修繕が必要ですか。

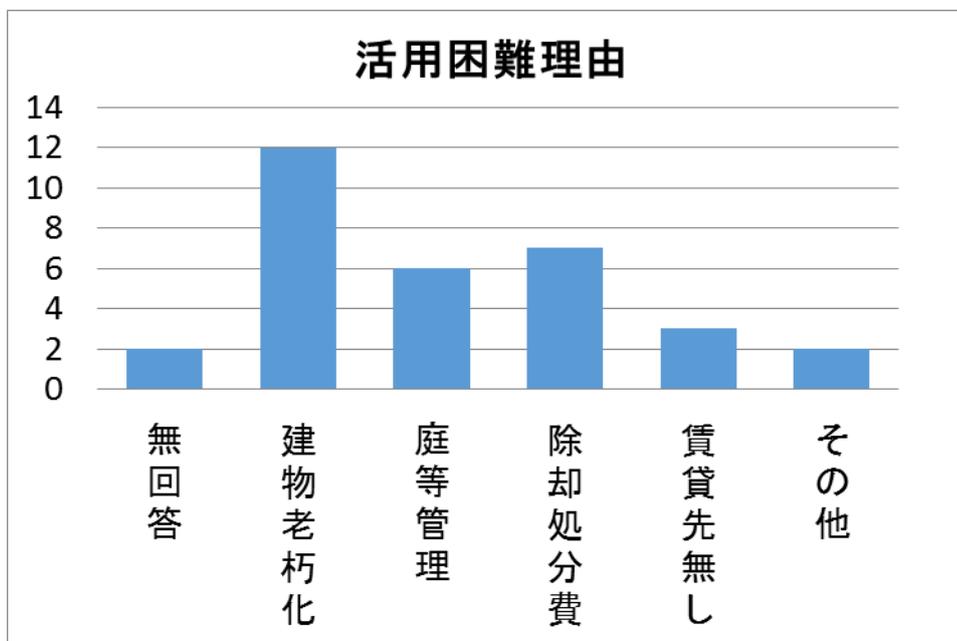
修繕の必要性（12名）



修繕必要が42%で、半数はすぐには使えないことがわかります。

問14. 問11で「3. 活用するつもりはない」と答えた方に伺います。
 対象建物の維持管理又は活用を考える上で、お困りになっていることや、
 心配事などがありますか。

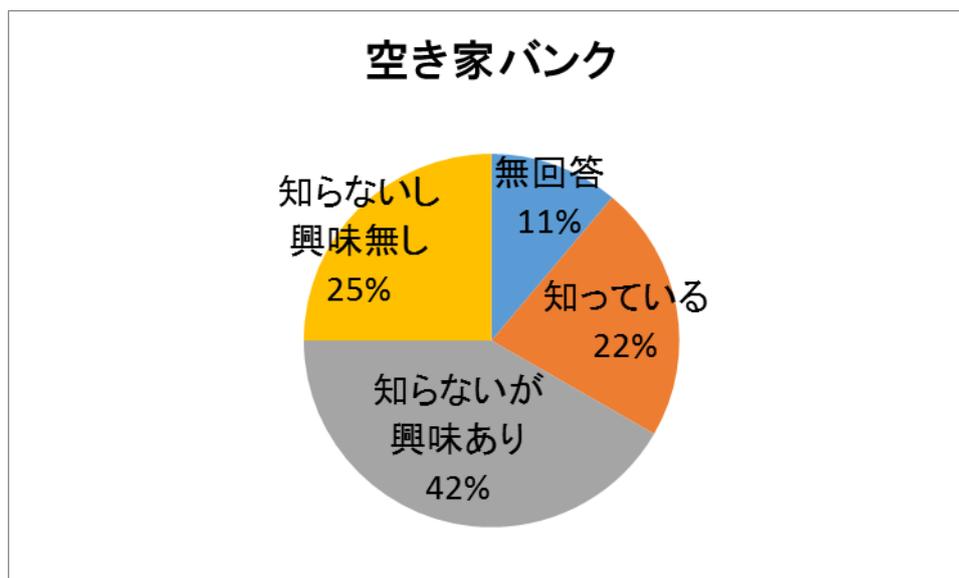
活用が困難な理由（複数回答可）



維持管理や活用に当たっての困りごととしては、建物の老朽化が12件で他を大きく引き離しています。

問15. あなたは、村が「空き家バンク」を設置していることをご存知ですか。

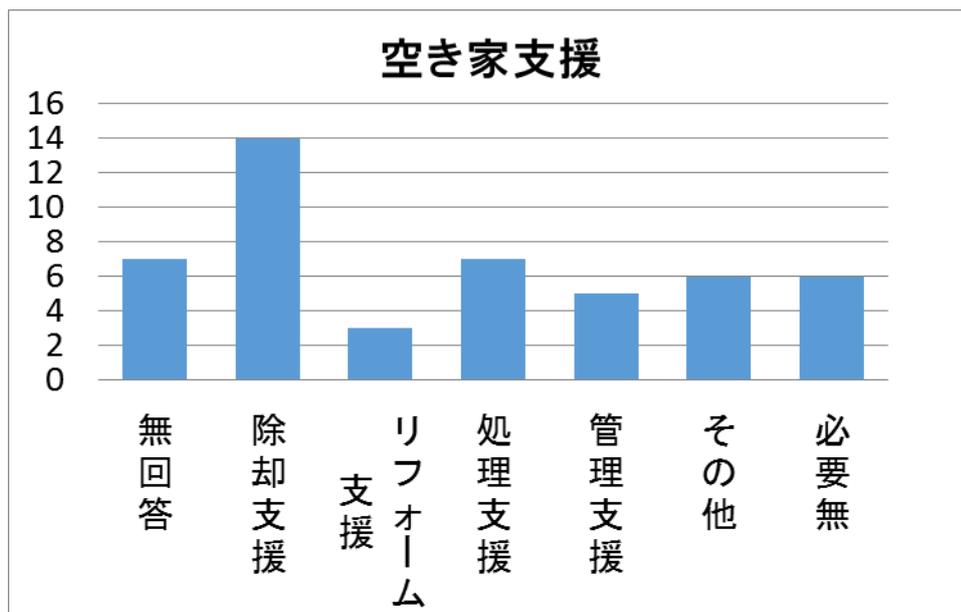
空き家バンク認知度（36名）



「知っている」が22%で、周知が不十分なことが示されました。42%が「空き家バンクは知らないが、興味はある」とのことで、需要はあるため、一層の周知啓発活動が必要です。

問16. 空き家の問題について、どのような支援があるといいなと思いますか。

空き家問題に必要な支援（複数回答可）



空家除却の支援が14件で最も多いので、今後、支援を検討する必要があります。